

公立高校の在り方に関する聞き取り調査結果（概要版）

「生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性」をテーマとして、県内 24 市町村教育委員会から聞き取りした意見（資料 4－2）を、「適正配置・再編統合等」及び「特色化・魅力化」の 2 つの観点から整理しました。

「適正配置・再編統合等」については、19 の教育委員会から意見があり、そのうち、高校再編の検討に関する意見（8）が最も多く、拠点校の整備や地元高校の存続に関する意見（各 5）等も頂きました。

「特色化・魅力化」については、18 の教育委員会から意見があり、地元自治体による地元高校の支援や特色あるコース・学科に関する意見（各 7）を多く頂きました。

具体的な意見は次のとおりです。

【適正配置・再編統合等】

< 高校再編 >

- ・少子化が加速しており、現状の高校数を維持していくことは困難になる。
- ・普通科高校の再編が必要。
- ・公共交通機関の現状や経済的な負担等を考え、慎重な議論が必要。

< 拠点校の整備 >

- ・地域ごとに生徒や保護者から選ばれるような核となる普通科高校が必要。
- ・県西部、県南部に拠点となる高校を絶対に残さなくてはならない。
- ・県西部地域における教育振興策として、例えば新たな総合高校を新設する構想も考えられる。

< 地元高校の存続 >

- ・自宅から通学できる範囲に公立高校があり、県下同水準の学びが保障される環境を維持してほしい。
- ・小規模校でしかできない教育の良さという視点も必要。
- ・公立高校が地元が存在することが、人口や経済に大きく貢献をしており、地方創生に直結している。

< その他 >

- ・全県的な視野に立った議論を。
- ・私立学校の少ない本県において、公立校の果たす責任は、他県とはその重さが大きく異なる。
- ・よりよい教育環境等の確保のための方策を行い、遠距離通学者の抑制、地元高校の育成などが図られる必要がある。
- ・募集定員は、第 3 学区に集中することなく、各校に一定規模の生徒数を確保。

【特色化・魅力化】

＜地元高校の支援＞

- ・存続に向け地域や行政の支援が必要。
- ・学力面だけにとらわれず、それぞれの地域や自治体が高校と一緒にあって、各校の実態に即した魅力ある学校づくりを。
- ・地域が一体となって地元の高校を盛り立てようとする雰囲気があり、これからも生徒が行きたい学校と思える学校になってほしい。

＜特色あるコース・学科＞

- ・普通科高校においても特色あるコースを設定するなど、特色化を先鋭化しても良いのではないかな。
- ・自由な発想による、既存の枠にとらわれない学科の創出。
- ・普通科において I C T を活用した授業及び学校作りに特化することによって、特色化や魅力化につながる。

＜効果的な発信等＞

- ・急激な少子化問題に直面する地域の高校が、一定の募集定員を確保しやすいように、全県の生徒や保護者に見える形で特色・魅力を積極的に発信していくことが必要。
- ・現在、県教育委員会・各高等学校の教職員が、地元校の育成に向け努力されていることを、今以上にうまく発信できないかな。
- ・各高校の特色化・魅力化の推進が一層必要。
- ・子どもたちが主体的に進路選択を行えるように取り組んでいただきたい。